



RAKUSAI CIRCUS

公園ペイント

PARK PAINTING

RAKUSAI CIRCUS

ペイントで街を彩る 「洛西サーカス」

洛西サーカスは、洛西ニュータウンにある公園を、自治体、福祉事業者、地域住民、学生、子どもたちが一緒になって、楽しみながら遊具の色を塗り変えるペイントプロジェクトです。

このカタログは、2024 年に行った洛西サーカスプロジェクトの記録をまとめたものです。

INDEX

2024.3.29
東竹の里 西市営住宅
児童公園



#01

2024.11.10
洛西北福西市営住宅 30 棟
南側公園



#02

2025.2.9
東竹の里 市営住宅
中団地住宅児童公園
東団地住宅児童公園



#03



#04



まだ寒さの残る 2024 年 3 月。古くなった遊具の下地を整え、誰でも手軽にペイントできるスポンジのスタンプなどを準備して、手探りでスタートした公園ペイント。地域の子ども、団地住民、地域の高校生達が参加して、大きな迷路、滑り台、ブランコの遊具をペイントしました。





遊具のベース塗りには、福祉事業所が参加。みんなで黙々と塗る姿に「きれいにしてくれてありがとう。」と、住民さんからの声かけがありました。滑り台の裏側まで、子どもたちがジャンプして遊びながらペイントした公園は、住民のおばあちゃん達が希望した「おしゃべりできる、明るい公園になってほしい」「色は、夕日のオレンジに山の緑とピンク」「形は丸じゃなくて楕円形」。そんな明るい場所に公園が生まれ変わりました。



PROCESS



BEFORE





高校生たちとのデザインワーク

2024 年の初夏。地域をもっと巻き込んで行こうと、2つ目から4つ目までの公園をペイントするアイデアを、地域のボランティア部として活動する、地元、洛西高校の洛再 Links とイラスト部の生徒を中心に、デザインやイベント企画を進めることになりました。



PROCESS 夏休み。デザインアップまでのプロセスを4つのワークにして、高校生たちと進めていきました。

STEP
01 フィールドワーク「観察から見えること」

3つの公園を歩いて回るフィールドワーク。公園を取り巻く環境に立って、その場所で感じたこと、どんな風景になって欲しいかなど、自分自身の感想をまとめました。



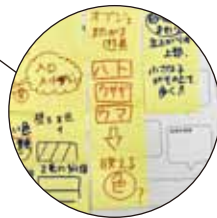
STEP
02 コミュニケーションワーク「質問から見えること」

団地に住むみなさんとの交流会を兼ねたコミュニケーションワーク。「どんな公園にしたいですか？」と、高校生からの質問に、最初は遠慮がちな雰囲気でしたが、ジュースやお菓子を食べながら、だんだん活発で賑やかなディスカッションが生まれていきました。



STEP
03 コンセプトワーク「思いを言葉に」

みんなから出た意見を並べ、ペイントする公園のテーマを「言葉」に置き換えていくコンセプトワーク。高校生たちは、デザイナーのフォローを受けながら「見ただけで楽しい公園」「爽やかな公園」など、気持ちを言葉にしていきました。



STEP
04 デザインワーク「言葉を形に」

コンセプトワークで決まった言葉を、実際、デザインする遊具のイメージに具現化していくワーク。遊具の模型を作って実際にペイントしてみたり、手を動かしながら、色やカタチを決めていきました。秋に向けて最終のデザイン案は、高校生たちの宿題となり、2つのグループで進めていきました。





2024 年 11 月。「海」と「ジャングル」をテーマにした公園を、みんなでペイントしました。もともとパステルカラーだった遊具の雰囲気を生かしたい！という思いから、塗料の色のセレクトにもこだわり、やわらかで楽しい自由な海が出来上がりました。
高校生が下絵を描いた動物に、参加者が自由にペンキの色を選んで塗っていく試みで、よりカラフルで楽しい海の公園の出現となりました。







PROCESS

ペイントの前にハケやローラーの使い方のレクチャーを受け、みんなで仕上げていきました。ブランコ、シーソー、滑り台と、点在するたくさんの遊具の仕上げには、長岡中学の生徒たちが高校生と一緒に、完成に向けて筆を走らせました。ジャングルをテーマにした、公園ゲートの巨大な壁は、小学生たちが競争するようにスタンプの花を咲かせていき、見ている人たちから歓声が上がりました。

また、洛西高校・洛再 Links の生徒たちのワークショップ、リユース服の交換会、先生方からの焼き芋は、参加者の方々に楽しみを添える時間となりました。



BEFORE



雪が舞う極寒の 2025 年 2 月。「SWEET PARK」と題した公園ペイントを開催しました。150 平米にもなる巨大な迷路をスイーツで彩り、壁面ごとに、アイス、パフェ、フルーツ、マカロンなど、高校生たちが担当を決めてデザインしました。

参加者は、チョコレート、アイス、イチゴなど、お菓子のデザイン画をもとに、どんな色にするか想像を膨らませ「おいしそう〜。」「カワイイ！」と、楽しみながらペイントを進めました。

完成した公園は、まるでお菓子の世界に潜り込んだような、POPでカラフルな空間となりました。





3回目、4回目のペイント本番までの準備は、2ヶ月前の12月からスタートしました。年末の寒空の中、公園に集まり、古いペンキや遊具のサビを落とす地道な作業ですが、みんな手慣れて手際よく進みました。近くに住む小学生は、下準備3回と本番、フルに参加してくれました。当日のペイントは、高校生たちが参加者にデザインの説明をしたり、必要な塗料の色も調色したりと、イベント全体を動かしていく姿がありました。また、ペイントも3回目となり近隣以外からの参加も多く、終了後は、メディアにも多く取り上げていただき、実りの多い公園ペイントとなりました。

PROCESS & BEFORE





SAIKO CIRCUS AFTERWORD

京都市 都市計画局 住宅室 住宅政策課 嶋澤 貴大

洛西ニュータウンは、1976年にまちびらきをした、京都で初のニュータウンです。面積は約 260 ヘクタール。まちの中央には小畑川が流れるとともに、多くの公園や緑地が配置され、緑豊かで魅力的な住環境となるよう計画されています。しかし、まちびらきから 40 年以上が経過し、現在では少子高齢化と人口減少が進み、公園や団地は老朽化が目立つようになっています。

そこで、京都市では、地域の魅力を生かしたまちづくりを行うことで洛西地域を盛り上げることを目指し、令和 5 年度から「洛西“SAIKO(さあ、いこう)”プロジェクト」を進めています。

そうした取組の一つが、洛西ニュータウンの団地内を魅力的な場所にすることを目指す「公園遊具ペイントプロジェクト」です。このプロジェクトは、地域住民、学生、地域の福祉関係者、行政職員などが一緒になって、洛西ニュータウンに点在する団地内の公園遊具をカラフルに彩る企画です。パブリックアートに彩られた魅力あるまちを実現することと、遊具ペイントという楽しい作業を通じて、地域の住民同士の世代を超えた交流を生み出すことを目的としています。

このプロジェクトの実現に当たっては、地域の「再発見」と「再創造」を目指した体験型探求プログラム「洛再 Links」の活動に取り組む洛西高校のみなさんの協力も欠かせませんでした。地域の皆さんの意見をデザインに取り入れながら、高校生らしい自由な発想とアイデアで、公園に訪れる人たちに元気を届けるような、ポップでカラフルな公園を実現することができました。また、遊具ペイントだけでなく、高校生が企画したマルシェも同時に行っていただき、これまであまり接点がなかった地域住民と高校生たちの交流も生まれる素敵なイベントになりました。

まるで、参加者がサーカスの団員のように遊具をカラフルに色づけることで地域を盛り上げていく、そんなプロジェクトになればという想いで「洛西サーカス」と名付けたこのプロジェクトは、当初の想定を遥かに超える形で、多くの地域の関係者を巻き込み、想像以上に素敵な風景を生み出すことができました。

洛西ニュータウンには多くの魅力があふれています。これからも、市民のみなさんと一緒にこのまちの魅力を再発見し、更に高めていくことで、ニュータウンの再生につなげていきたいと考えています。

洛西高等学校 イラスト部

黒川 更紗

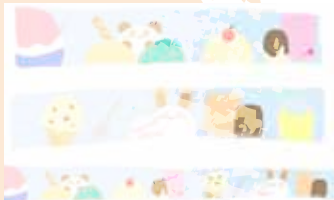
初めは仲間の中で出た発想をまとめたり、形にすることが難しく、色々な人に迷惑をかけてしまったけど、結果的に意見の断捨離やまとめ方などを学べてよかったと思います。色々な人と協力するということは、自分的にかなり苦手なことだったのですが、このプロジェクトを通して、もっと人に頼ったり、深く考えないことも大事だし、時には妥協も必要なことなど、いろんなことを知って、一回り成長できたと思います。最初はやるつもりのなかったことで、友達に誘われて成り行きでやることになったこのプロジェクトですが、街を彩って子供達に喜んでもらえるようなことに参加できて、心から良かったと思いました。

島田 彩愛

元々、ものづくり（特に絵）が好きだったのもあって、全体において楽しく全力で活動することができました。加えて、実際に周辺に住んでいる人たちの聞き込みなど、普段できないであろう体験ができたのも良かったです。今回の体験を胸に刻んで、活かしていけるようにしていきたいと思いました。改めて、サポートをしてくれた方々、ありがとうございました！いつかまたどこかで！

谷 桃々花

最初は楽しそうという単純な思いから参加したペンキ塗りプロジェクトでしたが、想像以上にやりがいのある活動でした。地域の方の意見を聞いたりデザインを考えたり、大変だなと思うこともありましたが、時間をかけて準備してきた分、完成した時の達成感や喜びは大きかったです。子供たちと一緒にペンキを塗ったり、地域の方や市役所の方など、たくさんの人と協力して素敵な公園にすることができたと思います。大人の方と関わって活動する貴重な経験をすることができたとし、何より楽しかったので、またこうした活動に参加したいと思いました。



藤原 百合香

今回のペンキプロジェクトでは、イベントを行う公園が自宅の近所であったり作品が長い間残ることもあって、私が持つ考えと全力を出しつくすことが出来ました。以前から興味があったデザインの仕事やイベントの運営を体験して得られるものも沢山ありました。見ている方からしたら些細な事も、企画をしている方からすると熟考されたアイデアであったり、時間と労力をかけて作られたものであったり、実際にやってみないと分からない事だらけで、驚きと苦労の連続でした。ただ、それ以上にペンキプロジェクトのメンバーと笑いあったり、子供達の笑顔を見ると疲れを忘れてしまうほどの楽しさや嬉しさがありました。これから過ごしていく中で、このプロジェクトで学んだことをどのように生かすことが出来るのか、とても楽しみです。

佐藤 凌莉

普段あまり得れない機会だったので、新鮮な気分で楽しむことが出来ました。仲間とどのようなデザインをやりたいか、どんなデザインなら人に来てもらいやすいのかと一緒に考えるうち、自分にはなかったようなアイデア達に出会い、とても楽しかったです。地域の方々と協力し遊具をぬるという新たな体験もできて良かったです！

渡邊 季乃

約1年をかけたペンキプロジェクトを通して、公園という身近な場所を自分の手で少しずつ変えていく面白さや難しさを実感しました。私は2つあるうちの1つの公園のデザイン等を担当しましたが、元々の黄色と水色の色合いがとても好きだったので、その雰囲気を壊さないように意識しながら、「海の生き物」という涼し気なテーマでデザインを考えました。地域の方々にも親しみを持ってもらえるようにと願いを込めて描いたので、完成した公園を見て、喜んでもらえたときは本当に嬉しかったです。この経験を通して、身の回りの風景に自分の想いを込められることの楽しさや、チームで1つのものを作り上げる達成感を学びました。

佐々木 壮太

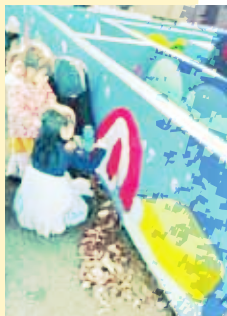
このプロジェクトに参加してみて、洛西地域はいくら高齢化が進んでいるとはいえ、一定以上の子供たちもいるので年配者向けのプロジェクトだけをするのではなく、地域の年配者と子供が（幅広い年齢の人たちが）関われる場を作るのが大切だと知った。その点で公園のペンキ塗りはとても貴重な場の手入れをすることができて、いいなと思った。また、塗ることを地域の方々にも手伝ってもらうことで、そこに交流が生まれ、新しいコミュニティが広がり、新たな活動につながると思った

山下 莉緒

私はペンキプロジェクトを通して、子どもとの関わり方について学ぶことができました。ゴミを活用した工作イベントの中で、多くの子どもが興味・関心を示したものを教えてくれましたが、無口であまり喋らない子どもに対してはどのように接して行けばいいのか悩んでいました。その際に言語の異なる子どもが来て、指や単語を使って言いたいことを表現してくれていました。それに対して私はジェスチャーや表情、簡単な単語でのコミュニケーションを試みると、とても楽しそうに作品を見せてくれました。こうした経験から、積極的に話しかけたり笑顔でいることが大切だと知りました。容易ではありませんでしたが、とても価値とある経験を得られたと思います。

野々村 悠大

私は約一年ペンキプロジェクトに参加して、地域の子どもたちがどうすれば興味を持ち楽しめるのかを、マルシェを通して考えることができた。私はそのマルシェで竹の弓矢を使った的当て体験を運営しましたが、子どもたちにとっては竹を使って遊ぶということが少ないというのもあり遊んでみたいという気力を引き出すことがあまりできなかった。しかし、体験してくれた子どもたちはみんな初めてで難しいけど楽しく体験できたと言って、体験を終えていました。私はこの経験を活かして進学して今まで先生方に頼っていた企業さんへのアポなど自力で行えるように学んでいきたいと思った。



京都府立洛西高等学校 洛再 Links 顧問 河本 卓

「洛再 Links」の活動が始まって7年。いろいろな活動に取り組んできましたが今回のプロジェクトへの参加はとても大きなチャレンジでした。秋冬の本番に向けて夏前からスタートする長丁場もさることながら、関わる人数・団体の多さ、そして何よりその中でプロジェクトの肝となる大事な役割を任されるという責任の重さも今までにないものでした。お話をいただいた際には気軽に「やりましょ！」（だいたいいつもこう言う）と言ってみたものの、Links 同好会には絵心のあるメンバーがいなかった！他の取組もある中で毎回人数が揃うのか？イベントとして盛り上げられるのか？など不安が後から山盛りわいてきました。しかし、そんな心配を蹴散らすように、団地の子ども達から出てきたナイスアイデア、イラスト部の全面協力、長岡中学校の参加、さつまいもの大量提供など成功へ向けての条件が次々に整っていきます。そして迎えた本番は2回ともペンキ日和に恵まれ、多くの人たちが関わる中でペイントの仕上がり、イベントの盛り上がりともに上々のできとなりました。もちろん背景にはスタッフの“導き、お膳立て&献身”があったことは言うまでもないのですが、生徒達は大きなチャレンジの成功という達成感をつかむことができました。学校を飛び出し地域の人とつながり何かを形にできたという経験は彼らの生き方に大きなインパクトを与えてくれたと思います。関わってくれた全ての方々に感謝！そしてサーカスは続く！！

一般社団法人 暮らしランプ アートディレクター 吉田 マリモ

2024 年3月から翌 2025 年2月までの約1年間にわたり、洛西内4つの公園のペイントディレクションに携わりました。「モノ作りから生まれるコミュニケーション」をコンセプトに、福祉、地域を「公園ペイント」を通してつなぐプロジェクトです。このプロジェクトは、福祉事業所が地域の方々とともに公園をペイントすることで、地域との自然な関わりが生まれることはもちろん、みんなで楽しみながら遊具をペイントすれば、きっと想いのこもった世界に2つとないオリジナルの公園になるのでは、と長らく温めてきた企画を実現したものです。今回、行政と暮らしランプがつながり、ペイントのワクワク感が多くの人に届き、広がるよう「洛西サーカス」と名付けられ、プロジェクトはスタートしました。初回は、どんな公園が出来るのか、住民の方々の不安もあったので、ご意見を聞きながら模型を作り、模型とほぼ同じようにベース塗りを進めました。福祉事業所のメンバーがベース塗りをしていると、「明るくなったねー。嬉しいわ！」「キレイにしてくれてありがとう！」と住民の方から喜びの声をかけていただき、プロジェクトの意義が見えた瞬間でした。本番のペイントには参加者が刷毛で塗るだけではなく、色々な大きさのスタンプを準備し、スタンプの形、ペイントする色を選ぶことでイメージーションが膨んで、見ていて楽しく、思わず微笑んでしまうような、オリジナルで楽しい柄がどんどん生まれていきました。2回目からは地域をもっと巻き込もうと、地元の洛西高校の力をお借りし、先生方の強力なサポートのもと、高校生たちが地域に飛び込み、試行錯誤しながら公園のデザインとペイント本番へ進んでいきました。そうして生まれ変わった公園は、本冊子でご紹介した通りです。モノ作りを通して、世代を超えたコミュニケーションの場づくりと、パブリックな場所を自分たちで彩る体験が、みなさんの心に残る時間となっていれば幸いです。プロジェクトの実現と成功を導いてくださった、関係者のみなさまに感謝を込めて。



主催 京都市都市計画局住宅室住宅政策課
企画 (一社)暮らしランプ
協力 東竹の里東市営住宅自治会 北福西市営住宅自治会
東竹の里中市営住宅自治会 京都府立洛西高等学校 洛再 Links
ワークスペース エルデ 澤村産業(株) 日本ペイント(株)

メイン撮影 亀田 光仁

カタログ制作・発刊 (一社)暮らしランプ 吉田マリモ制作室

(発刊日 2025年3月31日)